



IoP クラウド(SAWACHI)に収集される 出荷量データの傾向と分析

表1 IoPクラウド活用者と未活用者におけるIoPクラウドに収集されるJA出荷量統計データの比較(調査対象期間2023年1月以降)²⁾

品目	対象者	JA出荷者 番号数		反収/日		出荷日数		反収/年	
		戸数 (戸)	(対比)	中央値 (kg/日)	(対比)	中央値 (日)	(対比)	中央値 (kg/年)	(対比)
ナス	活用者	201	(53)	82.6	(121)	163	(116)	12,975	(140)
	未活用者	378	(100)	68.4	(100)	141	(100)	9,238	(100)

2) 調査対象期間：2023年1月以降のナスにおける全出荷者番号変更のため2023年1月1日～7月31日。

連携者はIoPクラウドに出荷データの提供を同意している全JA出荷者番号。

活用者は連携者の中でKC番号を保有しているJA出荷者番号。未活用者は連携者の中でKC番号を保有していない出荷者番号。

反収/日は反収÷出荷日数。対比は未活用者を100とした活用者の比率。

日数差は未活用者と活用者との日数の差。なお、外れ値や分布にバラつきがあるため中央値を使用した。

表2 IoPクラウド活用者と未活用者におけるIoPクラウドに収集されるJA出荷量統計データの比較²⁾

品目	対象者	JA出荷者 番号数		反収/日		出荷日数		反収/年	
		戸数 (戸)	(対比)	中央値 (kg/日)	(対比)	中央値 (日)	(対比)	中央値 (kg/年)	(対比)
キュウリ	活用者	165	(61)	103.0	(109)	215.0	(111)	21,592	(125)
	未活用者	272	(100)	94.4	(100)	194.0	(100)	17,237	(100)
ピーマン	活用者	79	(94)	80.3	(108)	208.0	(125)	15,968	(134)
	未活用者	84	(100)	74.4	(100)	166.5	(100)	11,950	(100)
シシトウ	活用者	34	(42)	32.4	(120)	251.5	(114)	8,224	(153)
	未活用者	81	(100)	26.9	(100)	221.0	(100)	5,389	(100)
ニラ	活用者	90	(49)	34.0	(100)	168.5	(116)	5,926	(122)
	未活用者	183	(100)	33.9	(100)	145.0	(100)	4,856	(100)

2) 調査対象期間：2022年8月1日～2023年7月31日。

連携者はIoPクラウドに出荷データの提供を同意している全JA出荷者番号。

活用者は連携者の中でKC番号を保有しているJA出荷者番号。未活用者は連携者の中でKC番号を保有していない出荷者番号。

反収/日は反収÷出荷日数。対比は未活用者を100とした活用者の比率。

日数差は未活用者と活用者との日数の差。なお、外れ値や分布にバラつきがあるため中央値を使用した。

高知県では農業データ収集基盤IoPクラウドSAWACHI（以下、SAWACHI）において、これまでに2247件の生産者からJA出荷量データを提供してもらっています。

今回、これらのうちSAWACHIアカウントを保有しSAWACHIを利用している出荷者を「活用者」、それ以外のお荷者を「未活用者」として、2022年8月1日から2023年7月31日の主要5品目における、1日当たりの反収、1年間の出荷日数、2年間の反収の中央値を比較、分析しました。

その結果、ナス、キュウリ、ピーマン、シシトウではいずれの品目においても活用者は1日当たり反収が多く、出荷日数が長

いことで1年間の反収が25～53%多く、また、ニラにおいては1日当たりの反収は同等であり、出荷日数が長く1年間当たりの反収が22%多いことが明らかとなりました(表1、2)。

今後もSAWACHIを活用して、現場にデータ駆動型農業の普及を進めて参ります

本研究は、内閣府地方大学・地域産業創生交付金「“IoP(Internet of Plants)”が導く「Next次世代型施設園芸農業」への進化」の助成を受けたものです。

(農業情報研究室 五藤雄大

TEL 088-863-4920)